

# 明治新聞雑誌文庫 ニューズレター

第一號  
平成二十九年二月十一日(土)  
編集・発行  
東京大學 大学院法學政治學研究科  
附屬近代日本法政史料センター  
明治新聞雑誌文庫  
〒113-0033  
東京都文京区本郷7-1-1  
電話 〇三-五八四一-三二七  
FAX 〇三-五八四一-〇二二

年二回発行

URL  
<http://www.meiji.j.u-tokyo.ac.jp/>  
Mail  
lmeiji@j.u-tokyo.ac.jp  
Twitter  
@UTokyo\_LMeiji

## 明治文庫、開設九〇年

明治新聞雑誌文庫(以下明治文庫)に長く勤務した西田長寿が初代事務主任宮武外骨から聞いた開設日は昭和二年二月十一日だそうです。

当初は第一高等学校(現・東京大学農学部)に間借りし業務を行い、昭和四年に史料編纂所階に移転しました。この場所は古在由直総長が決めたそうです。外骨は、地下であることが気に入らなかったそうですが、火災にも安全、何百トンもの重さになる資料にもびくともしないということ聞き納得し、古在総長を称えたということです。

以来、明治文庫はこの場所で、多くの方々のご支援を得ながら、資料を集し、利用に供しています。年間千名を超える利用者が国内外から訪れます。現在の、そして未来の利用者に資料を提供できるよう、資料の保存にも力を入れて取り組んでいます。

明治文庫の取り組みをニューズレターの形で、ご支援くださる皆様にご報告してまいりたいと思います。

## フィルムスキャナー導入

明治文庫にかかわりの深い瀬木博尚氏のご子孫瀬木博文氏代表の博政会よりマイクロフィルム用のデジタルフィルムスキャナーを年度初めにご寄附いただきました。これまでは、古いマイクロリーダープリンターを利用していましたが、部品の製造が中止となり、修理が難しい状況となっていました。



新たに導入されたフィルムスキャナー

## 中性紙保存箱作製中

所蔵資料の破損や劣化を少なくするために、中性紙の保存箱を作製しています。資料の大きさに合わせるため、保存容器はすべてオーダーメイドです。

二〇一六年十一月二十五日、二十八日、十二月五日の三日間にわたり、専門業者三名が約七三〇箱分の資料を計測しました。一人が書架から資料を出し、一人が縦・横・厚みを計り、一人がPCに入力するという分業でしたが、狭い書庫内での作業はとても大変だったと思います。

平成二十八年度は、約二一〇箱分を作製し、千冊以上の資料を保存箱に収納する予定です。また、収納の際には資料のクリーニングを行いますので、きれいな状態で保管することができますようになります。クリーニングと収納作業は三月に行う予定です。きれいに収納された資料と保存箱については、次号でご報告します。

## 外骨関係家具修理

明治文庫の書庫の奥に外骨書函という木製の書棚があります。昭和四年の竣工と当時にこの場所に据え付けられたようです。しかし、約九十年が経ち、傷みやガタツキが目立つようになっていました。

他に、外骨が来客の応対に使ったと思われる丸テーブルと椅子三脚が文庫内に残されています。丸テーブルは使用していましたが、椅子は座れない状態でした。

昭和初期の木家具は、修理できる職人さんが少ないこのことで難しいのですが、今回、高山市の家具メーカーが修理をしてくださるようになりました。

昨年十月六日に搬出し、飛騨高山で解体修理中です。三月に文庫に戻ってくる予定です。



解体・クリーニング後のテーブルの天板 (写真提供: 飛騨産業)

### 新聞資料の補修『濃飛』

ページが大きく破損していたため、製本されていましたが、解体して一枚ずつ広げられるようにしました。破損した部分は極薄の和紙で補修をし、専用の保存箱に収納しました。

製本をすると資料が散逸するのを防ぐことができるため、明治文庫の新聞資料はその多くが製本されています。

一方で、綴じた部分の情報が隠れてしまったり、表紙や見返しに糊で貼られた部分から破れてしまうことがあります。時代によって最適な保存方法は変わります。現在、明治文庫では解体した新聞資料は再製本を行わずに、解体した状態一元の状態で保存箱に収納しています。

このほか、大型のバインダーに綴じられていた新聞資料『めさまし新聞』の一部を、保存箱に収納するよう保存箱を作製中です。



▲修理後保存箱に収納された『濃飛』 (画像提供：資料保存器材)

### マイクロ再撮影

明治文庫では、マイクロフィルムがある資料は、原紙保護のため、フィルムでの利用をお願いしています。しかし、そのマイクロフィルムが著しい劣化のため利用できない場合があります。

あまりにも劣化したフィルムは複製を作ることができず、原紙を再度撮影しなければなりません。

今回『日刊人民』という新聞の一部を再撮影することにしました。製本されているため、専門業者が解体し、撮影業者に引き渡します。撮影が終わったら、保存箱に収納します。現在、解体作業が終わり、マイクロフィルム撮影が行われています。

### ロシア語新聞の発見

昨年度よりジュニアATA(法学部生)が新聞資料の所蔵調査を行っていました。この調査で未整理のロシア語新聞



▲発見されたロシア語新聞 『НОВОЕ ВРЕМЯ』 (フーヴォエ・ブレイミヤ)

が発見されました。一八七〇年代サンクトペテルブルグで数万部以上を発行したロシア語新聞です。多くの美しい写真、イラストも掲載されています。

整理しましたので利用できます。

### 耐震改修工事について

現在、学内の建物耐震改修工事が進んでいます。史料編纂所と明治文庫の区画についても工事が予定され、平成三十年夏ごろから着工となる見込みです。工事にあたりは、資料を退避させ、事務室も移転することになります。移転から再開準備までおよそ一年余りを休室することになります。 ※スケジュールは変更となる場合があります。詳細がわかり次第、ホームページ等でお知らせいたします。

### NHKで資料紹介

平成二十八年十一月三日、近代日本法政史料センター原資料部所蔵の「我妻栄関係文書」が「ニュースウォッチ9」で憲法問題研究会の議論を記録した資料として紹介されました。

また、十二月二十一日に文庫所蔵資料と書庫内部がNHK「ファミリーヒストリー」北野武で紹介されました。資料は『別世界』という雑誌で、北野さんの祖母に係る重要なものでした。

### 感謝の色紙 〳ゼミ生から

今年度の法学部Aセメスターの五百旗頭薫教授の日本政治外交史演習にて、

明治文庫を活用いただきました。毎週のように学生が明治期の新聞を熱心に調べに来ていました。ここで初めてマイクロフィルムを見たり、デジタルスキャナーを使ったりしたという学生も授業が終わる十二月には慣れた手つきでマイクロフィルムを扱っていました。

授業終了後にゼミ生の皆さんからのメッセージが書かれた色紙をいただきました。 思いもよらぬ贈り物に職員一同、大感激。これからも利用者のためにがんばろうとあらためて思っただうれしい出来事でした。



### 明治新聞雑誌文庫商品開発

Coming Soon!

赤門の隣にあるコミュニケーションセンターでは東大グッズを販売しています。四月から、左記の明治文庫のグッズ三点が加わる予定です。

- ・ 自立するうちわ
  - ・ 超撥水風呂敷
  - ・ 蛇腹便箋レターセット
- それぞれ明治文庫所蔵資料や蔵書印などを組み合わせたデザインで、大学本部社会連携部と協働し、鋭意作製中です。

なお明治文庫グッズの売り上げの一部は所蔵資料の保存のために使われます。